

土地分類基本調査簿（国土調査）第 129 号

土 じ ょ う 各 論

青 梅

5 万 分 の 1

国 土 調 査

経 済 企 画 庁

1 9 7 2

目 次

I. 土 壤 細 説	1
I. 1. 主として山地, 丘陵地地域の土壌 (林野土壌)	1
I. 1. 1. 岩屑土	2
I. 1. 2. 未熟土	3
I. 1. 3. 褐色森林土	4
I. 1. 3. 1. 乾性褐色森林土壌	4
I. 1. 3. 2. 褐色森林土壌	8
I. 2. 主として台地・低地地域の土壌 (農地土壌)	12
I. 2. 1. 黒ボク土	12
I. 2. 1. 1. 厚層黒ボク土壌	12
I. 2. 1. 2. 黒ボク土壌	16
I. 2. 1. 3. 多湿黒ボク土壌	22
I. 2. 1. 4. 黒ボクグライ土壌	23
I. 2. 2. 褐色森林土	25
I. 2. 2. 1. 褐色森林土壌	25
I. 2. 3. 褐色低地土	28
I. 2. 3. 1. 褐色低地土壌	28
I. 2. 3. 2. 粗粒褐色低地土壌	30
I. 2. 4. 灰色低地土	35
I. 2. 4. 1. 細粒灰色低地土壌	35
I. 2. 4. 2. 灰色低地土壌	38
I. 2. 4. 3. 粗粒灰色低地土壌	39
I. 2. 5. グライ土	41
I. 2. 5. 1. 細粒グライ土壌	41
II. 土 壤 分 類 と 土 地 利 用	42
II. 1. 主として山地, 丘陵地地域の土地利用 (林野土壌)	42

II. 2. 主として台地, 低地地域の土地利用 (農地土壌)	44
III. 資 料	46
IV. Summary	47

1 : 50,000

土じょう各論

青 梅

農林省林業試験場 農林技官 小 島 俊 郎
 八 木 久 義
 農林省農業技術研究所 農林技官 山 田 裕
 田 村 英 二
 三 土 正 則
 加 藤 好 武

I. 土 壤 細 説

I. 1. 主として山地・丘陵地地域の土壌（林野土壌）

本図幅内の山地および丘陵地に分布する土壌は断面形態の特徴，母材，堆積様式などの相違により，次のごとく三土壌群，四土壌統群，九土壌統に区分された。

土壌群	土壌統群	土壌統
岩屑土	岩屑性土壌	南郷統
未熟土	風化火山抛出土未熟土	堀之内統
褐色森林土	乾性褐色森林土壌	成木1統
		平井1統
		七国峠1統
	褐色森林土壌	成木2統
		平井2統

七国峠2統

滝山統

I. 1. 1. 岩屑土

I. 1. 1. 1. 岩屑性土壌

この土壌群は主として加住丘陵及び草花丘陵の北縁部が、多摩川本流並びに秋川による侵蝕を受けた崖の部分に分布する。場所の違いにより砂や礫の混合率に多少の相違はあるものの、いずれも鮮新世の中・小礫及び砂等を母材とした土壌であり、また土壌は極めて未熟で断面の特徴にもあまり相違はみられなかったため、ここでは土壌の細分はおこなわなかった。

南郷統 (Ngo)

加住丘陵では、滝山城跡を中心に西は高月部落から東は拝島橋までのびた多摩川沿いの崖部に、秋川沿いでは秋留橋を中心に東西に長く分布している。草花丘陵では満地付近の丘陵末端部に分布し、阿須山丘陵では武蔵野炭鋳背後の崖に小面積ながら分布がみられた。

崖の上部は削剥が著しく基岩の露出が認められ、下部では削剥された礫、砂などが堆積している。土壌は層の分化があまり見られず極めて未熟であるが、崩積性の土壌では水分の供給、排水も良好でありスギの造林も可能である。しかし、現在も侵蝕は進んでおり、土地利用上は十分な注意が望まれる。

代表断面 (地点番号No.8)

位 置 東京都秋多町字引田

海拔高 175m 傾斜 35° 方位 N40°E

地形・地質 第三系丘陵地・麓屑面

母材・堆積様式 円礫・砂、崩積

林況 スギ30年生林。樹高13m、地表はタマアジサイが優先

L: スギの落葉粗に堆積

I: 0~15cm にふい黄褐色 (10Y R5/6), 腐植に富む壤土, 大中小円礫富む, 弱度の軟粒状及び粗粒状, 粗密度粗, ねばり弱, 半乾, 小根富む, II層との境界判然

II: 15~40cm 黄褐色, (10Y R5/6), 腐植を含む砂土~砂質壤土, 大中小円礫頗る

富む，構造なし，粗密度中，ねばり零，湿，大中小根含む，Ⅲ層へ漸変
 Ⅲ：40～70cm＋ 黄褐色(10Y R5/6)，腐植に乏しい砂土，大礫頗る富み，小中礫富む，
 構造なし，粗密度中，ねばり零，湿，小根まれ

I. 1. 2. 未熟土

I. 1. 2. 1. 風化火山抛出物未熟土壌群

本土壌統群は，極めて風化の進んだ多摩ロームを母材とした土壌で，狭山丘陵の西部を除く大部分の地域と，阿須山丘陵の東端部で海拔高が140 m内外の丘陵頂部平坦面に分布する。

多摩ロームは地域により上部或は下部ロームが見られるが，いずれも極めて植質でありここでは一括した。また本土壌統群は崩積性の土壌は分布が少なく，土壌の断面形態にも明確な差が見られないので，土壌は細分しなかった。

堀之内統 (Hnu)

この土壌は暗赤褐色を帯びた極めて植質な土壌で，腐植の滲透は著しく悪く，全土層は深いが土層の分化は不明瞭である。

乾燥の影響はさほど見られず，概ね弱乾性～適潤性土壌に包含されよう。

本土壌の分布するところは，古くは農用林として薪炭材の採取や落葉の採取も行なわれたというが，現在では大半が東京都の水源林として保存され，アカマツを上木としたコナラ，クリ，シデ等を含む天然林となっている。しかし，私有地ではここ数年来都市化の影響による開発が急速に進んでいる。天然生木や点在するヒノキ造林木の生育状況は中庸である。

代表断面（地点番号No.23）

位 置	埼玉県所沢市字上山口
海 抜 高	150m 傾斜 20° 方位 N70°W
地 形・地 質	第三系丘陵地・丘陵頂部緩斜面
母材・堆積様式	多摩ローム
林 況	ヒノキ20年生林，樹高7 m

L : コナラ, ネジキ等広葉樹の落葉粗に堆積

I : 0~2cm 暗褐~極暗褐 (7.5Y R 2.5/3), 腐植に富む埴質壤土, 弱度の微粒状構造, 粗密度頗る粗, ねばり中, 半乾, 小根富む, 菌糸臭強し, 下層との境界は明

II : 2~22cm 暗褐~褐色 (7.5Y R 3.5/4), 腐植を含む埴土, 上部に弱度の堅果状構造, 粗密度密, ねばりやや強, 半乾, 小・中根含む, 下層へ漸変す

III : 22~43cm 暗褐色 (7.5Y R 3/4), 腐植に乏しい埴土, 壁状, 粗密度密, ねばりやや強, 半乾, 中根あり, 下層へ漸変す

IV : 43~63cm 褐色 (7.5Y R 3/6), 腐植に乏しい埴土, 壁状, 粗密度中, ねばりやや強, 半乾, 小根まれ, 下層へ漸変す

V : 63~80cm+褐色 (7.5Y R 4/5), 腐植に乏しい埴土, 壁状, 粗密度中, ねばりやや強, 半乾, 小根まれ

I. 1. 3. 褐色森林土

I. 1. 3. 1 乾性褐色森林土壌

本図幅内においては, この土壌群は山地丘陵地域の山頂部や尾根などの地形的に比較的乾燥しやすい場所に分布する。主として母材の相違により次の統に区分された。

成木1統 古生代及び中生代の砂岩・粘板岩・頁岩などを母材とする砂質壤土ないし、埴質壤土

平井1統 第三系中新世の砂岩・泥岩・礫岩等を母材とする壤土

七国峠1統 第三系鮮新世および第四紀の円礫・砂・粘土などを母材とする砂質壤土ないし壤土

成木1統 (Nrkl)

本図幅内においては図幅の西端に, 北から阿須山, 草花・加住丘陵のそれぞれ西縁に接してわずかずつ出現する秩父古生層および中生代小仏層山地の山頂部や尾根筋に巾狭く分布している。

青梅市北部の成木・黒沢附近は本図幅内では一番広く, かつ標式的な分布が認められる。

本土壌統の分布する地域は比較的急峻な山地地形を呈し, 本図幅内では一番起伏量が

きく斜面は長く、尾根筋は癩せている。

一般に土壌は浅く、母材の違いにより砂質壤土から埴質壤土までである。林野土壌のBA型・BB型土壌に相当するものが多い。海拔高が300m以下の低い山地であり、カシ、シイなどの常緑広葉樹が多く、上木にはアカマツが生立しているが、生育は良くない。

代表断面（地点番号No.19）

位	置	青梅市入谷井
海	拔	高 315m 傾斜 20° 方位W
地	形・地質	秋父古生層山地 巾の狭い尾根上の緩斜面
母	材・堆積様式	粘板岩・砂岩、残積
林	況	ヒノキ35年生林、樹高10m、上木としてアカマツの天然生木あり、林床にはヒサカキ、コウヤボウキ多し。

断面形態

L：1cm ヒノキ、アカマツ、広葉樹などの落葉

F：2cm

H：2cm

A：0～5cm 暗褐色（10Y R3/4）、中・小角礫に富む、腐植に富む砂質壤土、微粒状ないし粗粒状構造発達、粗密度粗、ねばり弱、半乾、中・小根に富む、菌糸臭強し、B層との境界は明

B：5～25cm 黄褐色（10Y R5/6）、大・中角礫に富む、腐植に乏しい砂質壤土、粗密度中、ねばり弱、半乾、中・大根含む、B—C層との境界は明

B—C：25～60cm+黄褐～明黄褐色（10Y R5.5/6）、大礫頗る富む、腐植に乏しい砂質壤土、粗密度中、ねばり弱、半乾、小根あり

平井1統（Hril）

本図幅においては秋留台地の西端に位置し、小面積で出現する第三紀中新世の砂岩・泥岩・礫岩等を母材とする地域の山頂や尾根筋に分布する。本土壤統の分布地域は一般に海拔高が低く斜面は中・古生層山地ほど急でなく、尾根筋もさほど癩せておらず、鈍頂もみられる。

土壌は一般に浅く、砂質な土壌からやや埴質のものまでみられる。褐色森林土のBB、BC型土壌に相当するものが多い。本統のところは殆んど天然生林となっており、アカマ

ツ、モミ等の下にカシ、シイ等の常緑樹が優占しているが、アカマツの生育は七国峠1統の地域よりかなり良い様である。

代表断面（地点番号No.38）

位 置	東京都西多摩郡日の出村玉の内
海 抜 高	240m 傾斜 10° 方位 S70°W
地形・地質	第三系中新統低山地，ゆるやかな尾根筋
母材・堆積様式	五日市層泥岩，円礫岩，残積
林 況	ヒノキ80年生林，樹高11m，ヒノキ造林地なるも放置されたためアカマツ（樹高13m）を上木とする天然林状である。

断面形態

- L：2cm 広葉樹・アカマツ等の落葉
 F：1～2cm 上記の腐朽葉密に堆積
 A：0～10cm 暗褐色（10Y R3/4），腐植に富む壤土，小円礫含む，堅果状構造発達，粗密度中，ねばり弱，半乾，中・小根富む，最上部にM層レンズ状に認められる，下層との境界は明
 B：10～33cm 褐色（10Y R4/6），腐植に乏しい壤土，中小礫含む，弱度の堅果状構造，粗密度中，ねばり中，半乾，大・中・小根含む，下層との境界は明
 B-C：33～60cm+ 黄褐～明黄褐色（10Y R5.5/8），腐植の極めて乏しい砂質壤土，腐朽礫に富む，粗密度中，ねばり弱，半乾，根系まれ

七国峠1統（Nkt1）

本図幅内の丘陵地は，図幅中央に島状に残る狭山丘陵も含め，基盤は第三紀鮮新世から洪積世にかけて堆積した円礫・砂等の半固結堆積物からなっている。本統はこれら丘陵地のうち，表層に多摩ローム，立川ローム等火山灰の堆積が見られる地域を除いた大部分の屋根筋や凸形斜面に広く分布する。

一般に山頂緩斜面が多いが，枝尾根の中には谷の侵蝕作用が著しく，尾根が磨けており，土層の極めて浅いものも認められる。林野土壤のBC型土壤に相当するものが多いが，一部にBB，BA型土壤などもある。

本地域は近年都市開発の影響を受け，学校，住宅，霊園，ゴルフ場などの造成が極めて急激に進みつつあり，現在，残存林分は上木にアカマツを含む広葉樹低木林として放置さ

れている。本地域は里山のため、古くから薪炭材の供給や落葉採取など農用林として利用され、かなり強度な人為の影響があったものと推察される。

本統においては、標準的なものと土層の極めて浅いものと二断面を記載しておく。

代表断面（地点番号No.27）

位 置 埼玉県入間市字仏子
 海 抜 高 135m 傾斜 10° 方位 S60°W
 地形・地質 第三系鮮新世丘陵 瘠尾根頂部
 母材・堆積様式 飯能礫層 残積
 林 況 アカマツを主とする天然生低木林、樹高4m、生育極めて不良

断面形態

- L：1cm アカマツなどの落葉
 F：1cm± アカマツ、広葉樹の腐朽葉
 A：0～5cm にぶい黄褐色（10Y R4/3），腐植にやや富む壤土，中・小円礫含む，微粒状及び堅果状構造発達，粗密度粗，ねばり弱，乾，小根に富む，白色菌糸含む，下層との境界は明
 B：5～18cm 褐色（10Y R4/6），腐植に乏しい壤土，大・中小円礫富む，弱度の堅果状構造，粗密度中，ねばり弱，半乾，中・小根含む，下層との境界明
 C：18～50cm+ 橙～明黄褐色（7.5～10Y R6/8），壤土，大・中円礫頗る富む，粗密度中，ねばり弱，半乾，根系まれ

代表断面（地点番号No.12）

位 置 東京都青梅市長淵
 海 抜 高 260m 傾斜 25° 方位 S30°E
 地形・地質 第三系鮮新世丘陵地，丘陵頂部緩斜面
 母材・堆積様式 大荷田礫層，残積
 林 況 コナラを主とする落葉広葉樹林（林令約12年），樹高7m

断面形態

- A₀：特別な発達なく，コナラなどの落葉粗に堆積
 A：0～8cm 暗褐色（10Y R3/3.5），腐植に富む壤土，大・中円礫含む，堅果状構造発達，粗密度中，ねばり弱，半乾，小根に富む，下層との境界は明

- B₁ : 8~30cm 褐~黄褐色 (10Y R4.5/6), 腐植を含む, 壤土, 大・中円礫含む, 弱度の堅果状構造発達, 粗密度中, ねばり弱, 半乾, 中・小根含む, 下層へ漸変
- B₂ : 30~60cm+ 黄褐色 (10Y R5/6), 腐植に乏しい壤土, 大・中円礫含む, 粗密度中, ねばり弱, 半乾, 根系まれ

I. 1. 3. 2. 褐色森林土壌

山地・丘陵地の全域に分布するが, 山地では分布面積がかなり広く, 丘陵地では火山灰母材のものを除きかなり分布が狭い。一般に谷筋の凹斜面や平衡斜面の中・下部など, 比較的水分条件に恵まれた位置に分布し, 土壌は深く, 腐植が深くまで滲透し, 林地としての生産力は高い。なお加住丘陵の東半部では立川ローム(新期ローム)を母材とした土壌が斜面の形態を問わず広く分布していたが, 凸形斜面でも乾燥要因を表わす形態は余りはつきりせず, ここでは一括して本土壌群に含めた。

本土壌群は主として母材の違いにより, 次の4統に区分された。

成木2統 古生代及び中生代の砂岩・粘板岩・頁岩などを母材とする 壤土ないし 埴質壤土

平井2統 第三系中新世の砂岩・泥岩・礫岩などを母材とする 壤土

七国峠2統 第三系鮮新世および第四紀の円礫・砂などを母材とする 壤土ないし 埴質壤土

滝山統 立川ロームを母材とする 微砂質ないし 埴質壤土

成木2統 (Nr_k2)

成木1統の分布地域に出現する崩積土である。秩父古生層, 小仏層の砂岩・粘板岩などを母材とする砂質壤土ないし埴質壤土で, 林野土壌のBD・BE型土壌に相当する。一般に土層は深く, 層内には角礫を多く含み, 通気・透水性とも極めて良好で, 腐植は深くまで滲透し生産力は高い。大部分がスギ・ヒノキの造林地となっているが, 生育は良好であり, 周辺には優良造林地が多く, 「青梅林業地」と呼ばれる地域に属する。

代表断面 (地点番号 No.2)

位 置 東京都八王子市上川町戸沢

海 抜 高 230m 傾斜 35° 方位 N30°E

地形・地質 中生代低山地, 麓屑面

母材・堆積様式 小仏層砂岩・粘板岩崩積

林況 スギ20年生林，樹高13m，林床はタマアジサイが優占

断面形態

L：スギの落葉粗に堆積

A₁：0～10cm 暗褐色（10Y R3/3），腐植に富む埴質壤土，中・小角礫に富む，軟粒状及び塊状構造発達，粗密度粗，ねばり中，半乾～やや湿，小根含む，下層との境界は明

A₂：10～43cm 暗褐色（10Y R3/3），腐植に富む埴質壤土，小角礫に頗る富む，軟粒状構造発達，粗密度中，ねばり中，やや湿，小・中根あり，下層との境界は明

B：43～85cm+ 褐色（10Y R4/4），腐植を含む埴質壤土，中・小角礫富む，塊状構造含む，粗密度中，ねばり中，やや湿，小・中根あり

平井2統（Hri2）

平井1統の分布地域に出現する崩積土である。中新世の砂岩・泥岩・円礫岩等を母材とする壤土ないし埴質壤土で，林野土壌のB_D(d)～B_D型土壌に相当する。一般に土層は深く，腐植の浸透も良好である。本図幅内では分布面積は狭い。

斜面中・下部はスギ・ヒノキなどの造林地が多いが，凸形斜面ではモミやアカマツを主とする天然林となっている事が多い。

代表断面（地点番号 No.31）

位置 東京都西多摩郡日の出村平井

海拔高 200m 傾斜 30° 方位 S

地形・地質 中新統低山地，凸形斜面中部

母材・堆積様式 五日市層泥岩・円礫岩，歩行

林況 モミを主とする天然生林

断面形態

L：2cm モミ・広葉樹等の落葉粗に堆積

A：0～20cm 暗褐色（10Y R3/4），腐植に富む埴質壤土，中・小円礫含む，粗粒状および塊状構造発達，粗密度粗，ねばり中，半乾，中・小根に富む，下層との境界は明

B：20～65cm+ 黄褐色（10Y R5/6），腐植に乏しい埴質壤土，中・小円礫含む，

弱度の塊状構造，粗密度粗，ねばり中，半乾，小・中根あり

七国峠2統 (Nkt2)

おもに七国峠1統の分布地域に出現する崩積土壌である。大部分が鮮新世から洪積世にかけて堆積した円礫・砂などの半固結堆積物の風化したものからなっているが，凸形緩斜面に多摩ローム，立川ロームなどの火山灰が堆積している地域の斜面下部では，上記基岩の風化物と火山灰の混合物が土壌母材となっているものが見られる。ここでは本土壤統に含めた。一般に土層の深い壤土ないし埴質壤土が多い。林木の生育は七国1統よりはるかに良好であるが，里山のためかあまり針葉樹の造林は行なわれておらず，ほとんどが広葉樹を主とする薪炭林であり，成木2統や平井2統の地域と異なり粗放な経営形態がとられている。

ここでは基岩の風化物を母材としたものと，これに火山灰の混合したものの2断面を記載した。

代表断面（地点番号 No.9）

位 置 東京都西多摩郡秋多町菅生
 海 抜 高 280m 傾斜 32° 方位 N40°E
 地形・地質 第三系丘陵，凸形斜面中部
 母材・堆積様式 鮮新統礫層，歩行
 林 況 コナラを主とする広葉樹林（約25年生林）生育中庸

断面形態

L：2～3cm コナラの落葉粗に堆積
 A1：0～10cm 暗褐色（10Y R3/3），腐植に富む埴質壤土，中・小円礫に富む，塊状構造発達，粗密度粗，ねばり中，半乾，小根富む，下層との境界は明
 A2：10～24cm 暗褐～褐色（10Y R3.5/4），腐植にやや富む埴質壤土，大・中円礫に富む，塊状構造あり，粗密度中，ねばり中，半乾，中・小根富む，下層との境界は判
 B：24～70cm+ 褐～黄褐色（10Y R4.5/6），腐植に乏しい埴質壤土，大・中円礫に富む，腐朽礫含む，粗密度中，ねばり中，半乾，中・小根含む

代表断面（地点番号 No.26）

位 置 埼玉県入間市上谷町貫

海 抜 高 130m 傾 斜 25° 方 位 N60°W

地 形・地 質 第三系丘陵，凹形斜面下部

母材・堆積様式 円礫・砂・火山灰などの風化物

林 況 コナラを主とする広葉樹林

断面形態

A₀ : 特別な発達なし

A : 0~13cm 黒褐色~暗褐色 (10Y R3/2.5), 腐植に富む埴質壤土, 小円礫あり, 塊状及び軟粒状構造, 粗密度粗, ねばり強, 半乾, 中・小根あり, 下層との境界は判

B₁ : 13~30cm 褐色 (7.5Y R4/4), 腐植を含む埴質壤土, 中・小円礫含む, 弱度〇塊状及び軟粒状, 粗密度中に近し, ねばり強, 半乾, 小・中根あり, 下層へ漸変

B₂ : 30~70cm+ 褐色 (10Y R4/4), 腐植を含む埴質壤土, 中・小円礫含む, 壁状粗密度中, ねばり強, 半乾, 小根まれ

滝山統 (Tky)

立川ローム等新期火山灰を母材とした土壤で, 本地域内では主として加住丘陵の東半部を占めているが, このほか丘陵頂部の緩斜面や山腹下部の緩斜面に点在する。なお立川ロームは本図幅内の山地丘陵地においては, 南西端の加住丘陵周辺に分布が広く, ことに美根礫層や小宮砂層を基盤とする地域では厚く被覆している。しかし, 北の草花, 阿須山, 狭山などの丘陵ではほとんど点状に分布が認められる程度である。

滝山統は, 立川ロームが風積あるいはそれらが2次堆積したものを母材とした土壤で, 分布地域は起伏量が極めて小さく, 斜面は緩やかであり, 乾燥型の土壤はほとんどみられない。大部分が林野土壤のB_D(d)~B_D型土壤に属する。一般に残積性の土壤は腐植層が浅く崩積性のもは腐植層が深い傾向にある。土性は壤土~埴質壤土が多く, 土色は暗色味を帯びている。土壤の構造は他母材のものにくらべてわかりにくい。里山のため他の丘陵地の地域と同様ほとんどがアカマツを混交した広葉樹の薪炭林となっているが, アカマツの生育はやや良好であり, 尾根筋ではアカマツ天然林のみみられ, またまれに崩積面にはスギ林のみみられるが生育は中庸である。

代表断面 (地点番号 No.20)

位 置 東京都八王子市犬目町下犬目

海抜高 190m 傾斜 30° 方位 W
 地形・地質 第三系丘陵, 斜面中部
 母材・堆積様式 立川ローム, 歩行
 林況 コナラ, クリ, シデ等を主とする広葉樹林(林令約15年)

断面形態

- L : 2cm 広葉樹の落葉粗に堆積
 A1 : 0~10cm 黒褐~暗褐色 (7.5Y R2.5/3), 腐植に富む微砂質壤土, 弱度の塊状~堅果状構造, 粗密度粗, 半乾, 小根富む, 下層との境界は明
 A2 : 10~23cm 暗褐色 (7.5Y R3/3), 腐植にやや富む, 微砂質壤土, 弱度の塊状~堅果状構造あり, 粗密度粗, ねばり弱, 半乾, 小根含む, 下層へ漸変
 B1 : 23~53cm 暗褐色 (7.5Y R3/4), 腐植を含む埴質壤土, 粗密度中, ねばり中, 半乾, 小根あり, 下層へ漸変
 B2 : 53~90cm+ 褐色 (7.5Y R4/4), 腐植に乏しい埴質壤土, 粗密度中, ねばり中, 半乾, 小根あり

I. 2. 主として台地・低地地域の土壌 (農地土壌)

I, 2. 1. 黒ボク土

I. 2. 1. 1. 厚層黒ボク土壌

瀬谷統 (Sey)

この土壌は厚い黒色の多腐植火山灰土層をもつ黒ボク土である。腐植層 (A層) の厚さは60cm以上であるが, 本地域では1m以上の場合が多い。腐植含量は10~15%程度である。土性はおおむね壤質であるが, ときには下層が粘質となることもある。土層中に礫を含まない点で東青梅統と異なる。

本図幅内では主として立川, 武蔵野, 下末吉面などの上位~下位台地上の浅い谷底および凹地に分布し, そ菜畑または茶園として利用されている。

代表断面

地点番号 12
 所在地 埼玉県入間市北野
 地形・地質 台地上の浅い谷底，洪積層
 標高 90m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，崩積
 土地利用 畑

断面形態

第1層 (Ap) 0~55cm 腐植にすこぶる富む，黒褐 (7.5Y R2/2)，L，粒状構造，ち密度9，可塑性中，粘着性中，根を含む，半乾，層界，平坦判然。

第2層 (A₁₂) 55~100+cm 腐植にすこぶる富む，黒褐 (7.5Y R2/2.5)，SiL，ち密度15，可塑性強，粘着性中，根を含む，半乾。

東青梅統 (Hgo)

黒色で多腐植質 (腐植含量10%以上) の厚いA層をもつ再積性の厚層黒ボク土壌である。断面にはふつう小円~半角礫を含んでおり，この黒ボクが水による再堆積を経たことを物語っている。ただし礫が多くなり礫質のものは諏訪統として分離される。本図幅で新設した。

青梅市東方に分布が広く，羽村町，福生市，昭島市にも出現するが，いずれも多摩川沿いの下位面辺縁部に帯状に分布し，河川の営力による運積を示している。礫の存在を除けば厚層黒ボク土 (風積式) と形態的にほとんど変りなく，利用上の問題点も共通的と考えられる。

代表断面

地点番号 13
 所在地 東京都青梅市師岡792
 地形・地質 低位台地 (立川面)，洪積層
 標高 180m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，水積
 土地利用 普通畑 (ジャガイモ)

断面形態

第1層 (A_p) 0~20cm, 腐植に富む, 黒褐 (7.5Y R3/1), L, 軟粒状構造, 小円礫あり, ち密度19, 半乾, 根含む, 層界明瞭。

第2層 (A₁₂) 20~37cm, 腐植にすこぶる富む, 黒色 (7.5Y R1/1), L, マツシブ, 碎易で軟粒状にこわれる, 小円礫あり, ち密度20, 半乾, 根あり, 層界判然。

第3層 (A₁₃) 37~90cm, 腐植にすこぶる富む, 黒色 (7.5Y R2/1), L, マツシブ, 碎易で軟粒状にこわれる, 小円礫あり, ち密度21, 半乾, 根あり。

第4層 (B) 90+cm 腐植を含む, 褐色 (7.5Y R4/5), C L, マツシブ, 半乾。

諏訪統 (Suw)

黒色で多腐植質 (腐植含量10%以上) の厚いA層をもつ礫質な厚層黒ボク土壌である。断面は小~大円・半角礫にすこぶる富み, その間を多腐植質で軽しような黒ボクが埋めている。本図幅で新設した土壌統である。

秋留台地南部および八王子諏訪町の下位面および低位面にかなり広く出現する。黒ボクと礫の無淘汰な堆積状況からみて, 土石流様の堆積様式が想定され, ふつうの氾濫堆積とは考えにくい。普通畑として利用されているが, より広汎な利用のためには除礫が望ましい。

代表断面

地点番号 14
所在地 東京都八王子市諏訪町
地形・地質 下位台地, 洪積層(?)
標高 150m 傾斜 平坦
母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
土地利用 普通畑 (トウモロコシ)

断面形態

第1層 (A_p) 0~18cm, 腐植にすこぶる富む, 黒色 (7.5Y R2/1), L, 軟粒状構造, 小円~半礫含む, ち密度5, 半乾, 根含む, 層界明瞭。

第2層 (A₁₂) 18~50cm, 腐植にすこぶる富む, 黒色 (7.5Y R2/1), L, マツシブで容易に軟粒状に崩れる, 小円~半角礫富む, 多孔質, ち密度18, 半乾, 根あり, 層界明瞭。

第3層 (II A₁₃) 50+cm, 腐植に富む, 黒褐 (7.5Y R2.5/2), C L, 小円~半角礫

にすこぶる富む礫土，半乾，根あり。

長貫統 (Ngn)

この土壤は再積性の火山灰を母材として生成発達した厚層黒ボク土壤である。一般に25～35cmの腐植にすこぶる富み，黒色ないし黒褐色を呈する A層に続いて厚い極暗赤褐色の腐植に富む A₁₂層が出現し，1 m 以内に褐色火山灰土層がみられることはまれである。本土壤は礫を含まず，土性は壤質である。本図幅内においては武蔵村山市から東大和市，東村山市にかけて，および所沢市下富の台地内の主として浅い谷に帯状に分布するほか，秋多町草花の下位～低位台地，八王子市大谷町から日野市にかけてのほぼ上位台地に主にみられ，畑地として利用されている。

代表断面

地点番号 15
 所在地 東京都武蔵村山市残堀
 地形・地質 下位台地，洪積層
 標高 125m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，崩積
 土地利用 畑

断面形態

- 第1層 (Ap) 0～25cm 腐植すこぶる富む，黒褐 (5 Y R 2/2)，L，細粒状構造，ち密度13，可塑性弱，半乾，層界平坦判然。
- 第2層 (A₁₂) 25～65cm 腐植富む，極暗赤褐 (5 Y R 2/4)，L，弱度細粒状構造，小孔あり，ち密度18，可塑性中，半乾，層界平坦判然。
- 第3層 (B) 65～100⁺cm 褐色 (19 Y R 4/6)，C L，細スコリアあり，小孔あり，ち密度20，可塑性強，半乾。

羽村統 (Hmr)

この土壤は水積性の火山灰を母材として生成発達した厚層黒ボク土壤である。A層の厚さは60cm以上で，その腐植含量は5～10%程度である。土性は壤質で，細小円～半角礫を含んでいる。A層の下には一般に黄褐色を呈するB層がみられるが，この層の土色は風積性火山灰に由来する土壤と異なり彩度が若干低くなり，礫が含まれている。またときには腐植層下に礫層が出現することもある。本図幅内では羽村町，昭島市，秋多町の多摩川，

秋川に沿う低位から下位台地にかけての縁辺部に主に分布し、畑地として利用されている。

代表断面

地点番号 16
 所在地 東京都西多摩郡羽村町羽ヶ上
 地形・地質 下位台地，洪積層
 標高 165m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，水積
 土地利用 畑

断面形態

第1層 (A_p) 0～25cm 腐植富む，黒褐 (5 Y R 2/2)，L，粒状構造，ち密度13，可塑性弱，半乾，層界平坦判然。

第2層 (A_s) 25～65cm 腐植富む，極暗赤褐 (5 Y R 2/4)，小半角礫あり，L，細孔あり，ち密度19，可塑性中～強，半乾，層界波状明瞭。

第3層 (B) 65～100⁺cm 褐色 (10 Y R 4/4)，C L，ち密度16，可塑性強，半乾。

I. 2. 1. 2. 黒ボク土壌

皆瀬統 (Mns)

この土壌は比較的平坦な台地上において，風積性火山灰を母材として生成発達した黒ボク土に属し，黒色ないし黒褐色を呈する多腐植質のA層および下部に粘質で黄褐色のB層をもつことを特徴とする。

A層は厚さ25～50cmで林地，未墾地ではA₁₁，A₁₂，A₁₃ またはA₃層に分化し，とくにA₁₂ またはA₃層で黒色味が大きくなっているが，耕地ではこれらの層は一般に耕耘によって攪乱，平均化され，またごぼうなどが栽培される場所ではA層とB層との不規則な混合さえもみられる。

本図幅内においては主として上位および中位台地上の平坦面，また狭山丘陵以南の下位台地上の平坦面にそれぞれひろく分布し，主要畑作地帯となっている。一部林地(薪炭林，アカマツ林，ヒノキ林など)として残されているが，大部分はそ菜畑として利用され各種のそ菜栽培が行なわれている。狭山丘陵以北の入間台地では茶の栽培がとくに盛である。

代表断面(1) (農耕地)

地点番号 17

所在地 東京都東大和市芋窪

地形・地質 台地, 洪積層

標高 105m 傾斜 平坦

母材および堆積様式 非固結堆積岩, 風積

土地利用 畑

断面形態

第1層(A_p) 0~27cm 腐植にすこぶる富む, 黒褐(5YR2/2), L, 粒状構造, ち密度10, 可塑性中, 粘着性中, 半乾, 層界不規則明瞭。

第2層(B₂₁) 27~40cm 腐植を含む, 褐色(7.5YR4/4), CL, ち密度17, 可塑性中, 粘着性中, 半乾, 層界平坦漸変。

第3層(B₂₂) 40~100⁺cm 褐色(7.5YR4/5), CL, 上部に赤褐(2.5YR4/5)の細風化浮石あり, ち密度19, 可塑性強, 粘着性中, 半乾。

代表断面(2) (林地)*

地点番号 18

所在地 東京都青梅市藤橋字霞

地形・地質 台地, 洪積層

標高 165m 傾斜 平坦

母材および堆積様式 非固結堆積岩, 風積

土地利用 林地, アカマツを交えた広葉樹天然生林(林令25年)

断面形態

第1層(A₀) 特別な発達なし。

第2層(A₁₁) 0~9cm 腐植にすこぶる富む, 黒色ないし黒褐(7.5YR2/1.5), SiL, 軟粒状および塊状構造, 粗密度粗, 粘り弱, 半乾, 小根富む, 層界判然。

第3層(A₁₂) 9~20cm 腐植にすこぶる富む, 黒色ないし黒褐(7.5YR2/1.5), L, 粗密やや粗, 粘り弱, 半乾, 小根含む, 層界漸変。

* 本断面の調査は林業試験場によって行なわれた。

第4層 (A₁₃) 20~31cm 腐植にすこぶる富む, 黒色 (7.5Y R2/1), 砂岩角礫をわずかに含む, L, 粗密度中, 粘り弱, 半乾, 根系あり, 層界明瞭。

第5層 (A-B) 31~45cm 腐植に富む, 極暗褐 (7.5Y R2/3), CL, 粗密度中, 粘り中, 半乾, 根系まれ, 層界漸変。

第6層 (B) 45~90⁺cm 褐色 (7.5Y R4/4~5), CL, 粗密度中, 粘り中, 半乾, 根系まれ。

福生統 (Fus)

この土壌は水積性の火山灰を母材として生成発達した黒ボク土壌である。A層は 25~50cmで腐植にすこぶる富み, 黒色ないし黒褐色を呈している。B層は一般に黄褐色を呈するが, 水の影響によってその彩度は風積性火山灰に由来する皆瀬統に比してやや低くなる傾向がみられる。土性は粘質で, 細小円礫ないし半角礫を含んでいる。A層の土性はやや粗く壤質となっている。75cmまたはそれ以下に礫層が出現する場合があるが, このような例はとくに瑞穂町, 羽村町に多くみられる。本図幅内では青梅市東部から瑞穂町, 羽村町, 福生市にかけての下位および低位台地に主として分布するほか, 立川市砂川の下位台地上にも小面積みられる。畑地として利用されている。

代表断面

地点番号 19
所在地 東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎
地形・地質 下位台地, 洪積層
標高 140m 傾斜 平坦
母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
土地利用 畑

断面形態

第1層 (Ap₁) 0~12cm 腐植すこぶる富む, 黒褐 (5Y R2/2), L, ち密度9, 乾, 層界平坦漸変。

第2層 (Ap₂) 12~30cm 腐植すこぶる富む, 黒褐 (5Y R2/2), L, ち密度12, 乾, 層界波状明瞭。

第3層 (A₃) 30~75cm 暗褐 (7.5Y R3/3), 小円礫あり, CL, 細スコリアあり, ち密度18, 半乾, 層界平坦漸変

第4層(B) 75~100⁺cm 褐色(7.5Y R4/4), 小円礫あり, CL, 細スコリアあり, ち密度17, 半乾。

荒幡統(Ara)

この土壌は古い火山灰を母材として生成発達した黒ボク土で, 腐植に富むA層, 黄褐色粘質のB層をもち, 後述の北原統と類似の形態をとっているが, 母材となる火山灰の風化がより進み, 若干重粘となり, 磷酸吸収力がやや低くなるなど, 理化学性の点で北原統とは明らかに異なっている。

A層は25~50cmで黒色~黒褐色を呈しているが, 腐植含量は土色から感じられるより底く, 一般に5~10%程度である。B層の土色は北原統などに比べるとやや彩度が低くなっている。B層の土性はCL~LiCである。

本図幅内では狭山湖の東方, 柳瀬川の下位および中位台地に主として分布している。これにつづく上位面にみられる堀之内統は同一母材(多摩ローム)に由来する土壌とみられるが, A層の発達不十分のため風化火山抛出土未熟土として分類されている。荒幡統は主に畑土として利用されているが, 生産力は比較的高い。

代表断面

地点番号 20
所在地 埼玉県所沢市荒幡
地形・地質 高位台地, 洪積層
標高 77m 傾斜 平坦
母材および堆積様式 非固結堆積岩, 風積
土地利用 畑

断面形態

第1層(A_p) 0~22cm 腐植に富む, 黒褐~極暗褐(7.5Y R2/2.5), L, 中度粒状構造, ち密度12, 半乾, 層界平坦判然。

第2層(A₁₂) 22~50cm 腐植に富む, 黒褐(7.5Y R2/2), CL, 弱度塊状構造, ち密度21, 半乾, 層界不規則明瞭。

第3層(B) 50~100⁺cm 褐色(7.5Y R4/4), CL, 中度塊状構造, 細孔含む, ち密度22, 半乾。

北原統 (Kth)

この土壌は比較的平坦な台地上において、風積性火山灰を母材として生成発達した黒ボク土で、厚さ25～50cm程度、黒褐色ないし暗褐色の腐植に富むA層をもつ粘質の土壌である。

A層の腐植含量は皆瀬統の場合より若干低く5%以上、10%以下である。皆瀬統とは本質的に同じ生成過程をとるものであるが、A層の厚さがわずかながらうすいため、耕耘によるB層との混合で、その含量が低下したものとみられる。ごぼうなどの深根性作物の栽培がひろく行なわれていることもあって、A層下に腐植層と黄褐色のB層との機械的混合層がみられる場合が多い。

本図幅内では主として所沢市から狭山市、三芳町にかけての上位台地、入間市狭山台の飛行場跡地の一部、入間市の西端部桂付近の上位台地ならびに立川市、国分寺市、国立市の境界部の下位台地に分布がみられ、そ菜畑、茶園などとして利用されている。

代表断面

地点番号	21		
所在地	埼玉県所沢市北岩岡		
地形・地質	中位台地、洪積層		
標高	67m	傾斜	平坦
母材および堆積様式	非固結堆積岩、風積		
土地利用	畑		

断面形態

第1層 (Ap) 0～34cm 腐植に富む、極暗褐 (7.5Y R2/3), L, 粒状構造, ち密度13, 半乾, 層界平坦判然。

第2層 (AB) 34～56cm 腐植を含む、極暗褐(7.5Y R2/3)と褐色(7.5Y R4/6)の混合, CL, 細小孔含む, ち密度17, 半乾, 層界不規則判然。

第3層 (B) 56～100+cm 褐色 (7.5Y R4/6), CL, 細小孔含む, ち密度19, 半乾。

水野統 (Mzn)

この土壌は比較的平坦な台地上において、火山灰の二次堆積物(水積性)を母材として生成発達した堆積に富むA層(厚さ25～50cm)をもつ粘質な黒ボク土である。

ほぼ全層にわたって小中円礫を含んでいる。75cmまたはそれ以下に小中大円礫よりなる礫層または礫にすこぶる富む層の出現することもある。B層の土性はすべてCLである。

B層の土色は風積性火山灰に由来する北原統に比して若干彩度が低くなる傾向をもっているようである。本土壤統は再積性火山灰に由来し礫を含む土壌統としてさきに長浜図幅地区で設定した関ヶ原統の一部に類似するとみられるが、火山灰の特性は本統においてより強く保持されているようである。

本図幅内では狭山市から入間市にかけての下位台地、瑞穂町箱根ヶ崎、昭島市拝島の多摩川沿の下位台地に分布し、主としてそ菜畑、桑園、茶園などとして利用されている。

代表断面

地点番号 22
 所在地 埼玉県入間市上藤沢
 地形・地質 下位台地，洪積層
 標高 95m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，水積
 土地利用 畑

断面形態

第1層 (A_p) 0～29cm 腐植に富む，黒褐 (7.5Y R 2.5/2)，細小円礫をわずかに含む，L，ち密度10，半乾，層界平坦判然。

第2層 (A₁₂) 29～44cm 腐植に富む，黒褐(7.5Y R 2.5/2)，小円礫を含む，CL，ち密度8，半乾，層界不規則判然。

第3層 (B) 44～100⁺cm 暗褐～褐色 (7.5Y R 3.5/4)，小中円礫を含む，CL，ち密度17，半乾。

大野原統 (Onh)

暗褐色の堆積質(腐植5～10%)な表層をもつ，礫質な黒ボク土壌である。断面は小～大円・半角礫に富む。下層土は彩度の高い風化B層をもたず，暗褐～にぶい褐色の礫質なB層をへて一般に未風化礫層に移行する。

秋留台地東部の下位台地上に出現するほか，青梅市の多摩川南岸の下位台地上にも見出される。本図幅西部の下位台地地面には諏訪統とともに礫質な黒ボク土の分布が広い。諏訪統と同様土石流様の堆積様式が堆定される。

本土壤統名は「寄居」図幅の下位台地上に分布する礫質な黒ボク土に由来する。

代表断面

地点番号 28
 所在地 東京都西多摩郡秋多町野辺七辻
 地形・地質 下位台地, 洪積層
 標高 135m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
 土地利用 普通畑

断面形態

第1層 (Ap) 0~35cm, 腐植に富む, 黒褐 (5.0Y R2/2), L, 軟粒状構造, 未風化中円, 角礫富む, ち密度17, 半乾, 層界漸変
 第2層 (B) 35+cm 腐植を含む, 黒褐 (7.5Y R3/2), CL, マツシブ, 未風化中円礫すこぶる富む, ち密度20, 半乾。

I. 2. 1. 3. 多湿黒ボク土壌

深井沢統 (Fki)

粘質な厚層黒ボク土壌に由来する水田土壌である。水稻栽培による特徴的形態変化は1) 作土下の土層の鉄, マンガン斑の形成, 2) スキ床の発達, 3) 軟粒状構造の破壊と, 塊状構造の発達, 4) 湿潤化等に現われている。本土壌統では表面下80cm以内にグライ層はあってはならない。

秋留台地の東縁 (秋多町野辺ふきん) および八王子市を流れる川口川に沿う低地に分布する。

代表断面

地点番号 24
 所在地 東京都西多摩郡秋多町野辺字下田
 地形・地質 低位台地, 洪積層 (?)
 標高 125m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
 土地利用 水田

断面形態

第1層 (Ap_g) 0~15cm 腐植に富む, 褐灰~黒褐 (10Y R3.5/1), L, オリーブ黒 (5 Y2/1) のグライ斑富む, 管状・膜状斑あり, 小円礫含む, ち密度15, 湿, 層界明瞭。

第2層 (Bcg₁) 15~21cm, 腐植に富む, 黄灰 (2.5Y4/1), L, 膜状・糸状斑鉄富む, 中度細塊状構造, 小円礫含む, ち密度25, 湿, 層界明瞭。

第3層 (Bg₂) 21~29cm, 腐植を含む, 褐灰(10Y R4/1), CL, 糸根状斑紋富む, ベンチジン反応+, 塊状構造, 小円礫富む, ち密度22, 湿, 層界判然。

第4層 (Bg₃) 29cm, 腐植に富む, 黒褐 (10Y R3/1), CL, 糸根状Mn斑あり, ベンチジン反応+, 極弱塊状構造, 小・中円礫富む, ち密度20, 湿。

I. 2. 1. 4. 黒ボクグライ土壌

霞川統 (Kam)

黒ボク土 (ふつう再積性の) に由来する, 細粒質の弱グライ水田土壌である。土性は粘質・強粘質を一括する。同じ黒ボクに由来する強グライの岩屋谷統とは, 地下水によるグライ化作用が相対的に弱く, グライ層が深い位置にある点で異なる。したがって断面上部には水稻耕作の形態への反映 (溶脱集積による斑紋形成, 構造の発達など) がみられ, これが本図幅でこの土壌を岩屋谷統から分離させた大きな理由である。

青梅市東北部の霞川に沿う低地が主な分布地帯である。

代表断面

地点番号 25
所在地 東京都青梅市藤橋74
地形・地質 谷底平野; 沖積層
標高 165m 傾斜 平坦
母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
土地利用 水田

断面形態

第1層 (ApG) 0~16cm, 腐植に富む, 黄灰~黒褐 (2.5Y3.5/1), CL, ジピリジル反応+, ち密度9, 湿, 層界明瞭。

第2層 (A₁₂G) 16~29cm, 腐植含む, 暗黄灰~黒褐 (2.5Y3.5/2), CL, 不鮮明
糸根状あり, 中度塊状構造, ち密度18, 湿, 層界明瞭。

第3層 (Bg₁) 29~50cm, 腐植含む, 黒褐 (2.5Y3/1), LiC, 管状・糸根状斑鉄
富む, ベンチジン反応+, 中度塊状構造, ち密度18, 湿, 湧水面50cm, 湧水はジピ
リジルに弱く呈色, 層界漸変。

第4層 (Bg₂) 50~80cm, 褐 (7.5YR4/6), LiC, 管状・糸根状斑鉄含む, 管状・
糸根状 Mn 斑含む, ベンチジン反応++, 中度塊状構造, ち密度17, 潤。

第5層 (G) 80+cm, 灰~灰オリーブ (5Y4/1.5), LiC, ジピリジル反応++, 潤。

岩屋谷統 (Iwy)

この土壤はほぼ全層が黒色の腐植質火山灰土層からなるが, 地形的関係で排水が悪く全
層または断面の主要部分が顕著なジピリジル反応を示す黒ボクグライ土壌である。

土性は一般に粘質であるが断面下部に強粘質土層の出現することもある。G層中に膜状,
斑状, 糸根状斑などを含むこともある。

本図幅内では, 所沢市北野の中位台地をきる浅い谷底, および狭山丘陵南麓部の狭少な
谷底などに少面積分布し, 主として水田として利用されているが, 一部では盛土して桑園
として, あるいはそ菜畑として利用されているところもある。

代表断面

地点番号	26
所在地	埼玉県所沢市北野
地形・地質	台地上の浅い谷底, 洪積層
標高	93m 傾斜平坦
母材および堆積様式	非固結堆積岩, 崩積
土地利用	水田

断面形態

第1層 (ApG) 0~19cm 植に富む, 黒色~黒褐 (10YR2/1.5), L, ジピリジル
反応きわめて顕著, ち密度6, 湿, 層界平坦明瞭。

第2層 (G₁) 19~70cm 腐植に富む, 黒色 (10YR1.8/1.5), CL, 中度塊状構造,
細孔含む, 斑状・膜状・糸根状斑含む, ジピリジル反応顕著, ち密度14, 湧水面20
cm, 層界平坦判然。

第3層 (G₂) 70~100⁺cm 褐灰~灰黄褐 (10Y R4/1.5), LiC, シビリジル反応顕著。

I. 2. 2 褐色森林土

I. 2. 2. 1. 褐色森林土壌

大草統 (Oks)

洪積段丘に分布する強粘質な適潤性の褐色森林土であって、火山灰の影響は認められない。八王子市小宮町の下位面 (立川面) に局所的に出現し、そ菜畑として利用されている。

代表断面

地点番号 27
所在地 東京都八王子市小宮町
地形・地質 下位台地 (立川面), 洪積層
標高 95m 傾斜 平坦
母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
土地利用 そ菜畑 (きゃべつ)

断面形態

第1層 (A_p) 0~18cm, 腐植を含む, 黒褐 (7.5Y R3/1.5), CL~LiC, 中~細塊状構造, ち密度24, 半乾, 層界明瞭。

第2層 (B₁) 18~42cm, 暗褐 (7.5Y R3/4), LiC, 弱塊状構造, 構造面やや皮膜認める, 粗孔隙富む, ち密度22, 半乾, 層界漸変。

第3層 (B₂) 42⁺cm, 暗褐 (7.5Y R3/4), LiC, 弱塊状構造, 粗孔隙富む, ち密度20, 半乾。

恩方統 (Ogn)

全層または30cm以内より以下礫質である段丘面の褐色森林土である。礫は円・半角小中礫を主とし, 間を填める細土は壤質ないし粘質が多い。多摩川上流, 平井川, 秋川, 浅川に沿う火山灰の影響のない底位面 (青柳面とそれ以下の段丘面) に出現する。

野菜畑, 果樹園 (栗) などに利用されているが, 礫の存在による障害が目立ち, とくに

深根性作物には適さない。なおこの地形面は宅地化が進んでいる。

代表断面

地点番号 28
 所在地 東京都青梅市友田4丁目
 地形・地質 低位台地，洪積層
 標高 150m 傾斜 北へ2°
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，水積
 土地利用 サツマイモ畑

断面形態

第1層 (A_p) 0～17cm，腐植含む，にぶい黄褐 (10Y R4/2.5)，S L，軟粒状構造，細小円礫頗る富む，半乾，層界判然。

第2層 (B₁) 17～45cm，にぶい黄褐 (10Y R4/2.5)，S L，マツシブ，細小円礫土，半乾，層界判然。

第3層 (B₂) 45+cm，にぶい黄褐 (10Y R4/3)，S L，マツシブ，小・大円礫土，半乾。

秋留統 (Akr)

黒ボク土の混入の明瞭に認められる粘質の褐色森林土である。断面は黒褐色を呈し，黒ボク土の混入は明瞭である。しかしその一方黒ボク土に特徴的な軟粒状構造，ないし軟粒状構造に崩れやすい性質を欠き，土塊は堅くかつ重く，優勢な粘土鉱物種がアロフェンではないことを推察させる。ふつう細小礫が見出される。遷移亜型の概念を持込めば，褐色森林土の黒ボク土的亜型に当たる。

平井川，秋川にはさまれた秋留台地（下位面＝立川面）にその分布が広いが，八王子市式分方町，日野市の台地辺縁部の低位面にも出現する。普通畑のほか，桑園・果樹園としても広く利用されている。

代表断面

地点番号 29
 所在地 東京都西多摩郡秋多町雨間字早道場
 地形・地質 下位台地（立川面），洪積層
 標高 155m 傾斜 平坦

母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積

土地利用 普通畑

断面形態

第1層 (A_p) 0~20cm, 腐植に富む, 黒褐 (7.5Y R3/1.5), C L, 粒状および塊状構造, ち密度15, 湿, 根富む, 層界判然。

第2層 (A₁₂) 20~36cm, 腐植に富む, 黒褐 (7.5Y R3/1), C L, 細塊状構造, ち密度22, 湿, 根含む, 層界漸変。

第3層 (A₁₃) 36~70cm, 腐植に富む, 黒褐 (7.5Y R3/2), C L, 塊状構造, ち密度22, 湿。

第4層 (II B C) 70⁺cm, 腐植を含む, 褐 (7.5Y R4/3), S C L, マツシブ, 湿
干ヶ瀬統 (Sng)

黒ボク土の混入の明瞭に認められる礫質の褐色森林土である。礫の間を埋める細土は黒褐色で、黒ボクの混入は明瞭であるが、比較的硬い粒状~小塊状構造が発達し、黒ボク土に特徴的な軽しような軟粒状構造はみられない。同じ黒ボク土の混入のみられる秋留統とは礫質か否かで異なる。

青梅市の多摩川沿いにやや広く、また秋留台地の平井川沿いに細く帯状に分布する。

代表断面

地点番号 30

所在地 東京都西多摩郡日の出村平井

地形・地質 下位台地 (立川面), 洪積層

標高 170m 傾斜 平坦

母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積

土地利用 桑園

断面形態

第1層 (A_p) 0~16cm, 腐植含む~富む, 黒褐 (10Y R3/2)・S L, 粒状および小塊状構造, 小円~半角礫すこぶる富む, ち密度24, 半乾, 根含む, 層界判然。

第2層 (A₁₂) 16~45cm, 腐植含む~富む, 黒褐 (7.5Y R3/2), C L, 粒状および小塊状構造, 小円~半角礫すこぶる富む, ち密度24, 半乾, 根あり, 層界漸変。

第3層 (B) 45⁺cm, 腐植を含む礫褐 (7.5Y R3.5/3)・C L・マツシブ, 小円~半

角礫富む、ち密度22, 半乾, 根なし

I. 2. 3. 褐色低地土

I. 2. 3. 1. 褐色低地土壌

新戒統 (Snk)

谷底平野または沖積の段丘に分布する粘質な褐色低地土壌であって、火山灰の影響は認められない。砂質、壤質のメンバーとともに、もっとも頻出する褐色低地土壌である。八王子市の各地川沿いのせまい谷底および沖積段丘にもばら出現し、普通畑、桑園などとして利用されている。この流域には一部地下水の影響を受け、下層が灰色化し斑紋を生じたもの(栗野統)も出現するが図示は省略した。

代表断面

地点番号 31
 所在地 八王子市小宮町
 地形・地質 河岸段丘(沖積段丘), 沖積層
 標高 90m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
 土地利用 普通畑(キャベツ)

断面形態

第1層(A_p) 0~19cm, 腐植を含む, 黒褐(7.5YR3/2), CL, 粒状・弱塊状構造, 小円礫含む, ち密度15, 湿, 層界明瞭。
 第2層(B₁) 19~50cm, 褐~暗褐(7.5YR3.5/3), CL, 粒状・弱塊状構造, 小円礫含む, 隙に富む, ち密度19, 湿, 層界判然。
 第3層(B₂) 50+cm, 褐~暗褐(7.5YR3.5/3), CL~LiC, 弱塊状構造, 小円礫含む, 孔隙富む, ち密度21, 湿。

大内統(Ou)

この土壌は下層土が黄褐色を呈し、マンガン結核をもつ粘質の褐色低地土である。

本図幅内では所沢市上山口およびその東部の狭少な谷底ならびに入間市寺竹付近の霞川

沿岸の低地に分布し、主として水田、また一部畑として利用されている。

代表断面

地点番号 32
 所在地 埼玉県所沢市山口陳鐘
 地形・地質 谷底平野，沖積層
 標高 85m 傾斜 平坦
 母材および埶積様式 非固結堆積岩，水積
 土地利用 水田（休耕）

断面形態

第1層 (Apg) 0～18cm 腐植を含む，暗褐 (10Y R3/3)，L，糸根状斑あり，ち密度10，半乾，層界平坦明瞭。
 第2層 (Bg₁) 18～29cm 灰黄褐 (10Y R4/2)，CL，弱度塊状構造，糸根状，雲状，膜状斑富む，ベンチジン反応⁺，ち密度17，半乾，層界平坦判然。
 第3層 (Bg₂) 29～95cm 黒褐～暗褐 (10Y R2.5/3)，CL，糸根状斑あり，点状斑富む，ち密度19，半乾。
 第4層 (G) 95⁺cm グライ層。

三川内統 (Mik)

この土壤は下層土が黄褐色を呈し、マンガン結核をもつ壤質の褐色低地土である。作土は一般に灰色化している。土性はL～SLで、ときに円礫、半角礫を含むこともある。

本図幅内では飯能市下畑の小曹木川沿いに局部的に分布がみられるにすぎない。水田として利用されている。

代表断面

地点番号 33
 所在地 埼玉県飯能市下畑
 地形・地質 谷底平野，沖積層
 標高 110m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，水積
 土地利用 水田（休耕）

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~19cm 腐植を含む, 黄灰 (2.5Y4/1), L, 糸根状斑あり, ち密度11, 半乾, 層界平坦判然。
- 第2層 (Bg₁) 19~39cm 黄灰~暗灰黄 (2.5Y4/1.5), 小中円礫, 半角礫含む, L, 糸根状斑富む, ち密度16, 半乾, 層界平坦明瞭。
- 第3層 (Bg₂) 49~44cm 暗灰黄 (2.5Y4/2), 小中円礫, 半角礫含む, L, マンガン結核すこぶる富む, ち密度21, 半乾, 層界平坦判然。
- 第4層 (II B) 44~100⁺cm 褐色~にぶい黄褐 (10Y R4/3.5), 小中円礫をわずかに含む, S L, ち密度20, 半乾。

I. 2. 3. 2. 粗粒褐色低地土壌

飯島統 (Iij)

この土壌はほぼ全層が黄褐色で砂質の層からなる粗粒褐色低地土壌である。本図幅内では福生市志茂, 昭島市宮沢町, 立川市柴崎町, 八王子市滝付近の多摩川沿いの高水敷と自然堤防上の一部にかけてそれぞれ狭小な面積で分布し, 畑地として利用されている。

代表断面

地点番号 34
 所在地 東京都昭島市宮沢町谷下前
 地形・地質 高水敷, 沖積層
 標高 85m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
 土地利用 畑

断面形態

- 第1層 (Ap) 0~20cm にぶい黄褐 (10Y R4.5/3), L F S, ち密度13, 半乾, 層界平坦判然。
- 第2層 (B) 20~100⁺cm にぶい黄褐 (10Y R4.5/3) および灰黄褐 (10Y R4.5/2) の混合色, L F S, ち密度11, 半乾。

長崎統 (Ngs)

砂質な褐色低地 (水田) 土壌である。断面下部の砂質で充填の粗な厚い褐色の土層で特徴づけられる。マンガン点状斑はあってもなくてもよい。一般に下層土は単粒状で, 高次

の構造は発達しない。これに反し表層土の灰色化、鉄・マンガンの溶脱—集積層の分化、鋤床の発達はきわめて明瞭に認められる。礫質、壤質のメンバーと共に褐色低地（水田）土壌の代表的なものである。

八王子市高月、日野市、昭島市等のいずれも多摩川現沖積面に小面積ずつ点在する。過大な透水性のため水管理が問題になる水田である。

代表断面

地点番号 35
 所在地 東京都日野市日野
 地形・地質 谷底平野、沖積層
 標高 70m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩、水積
 土地利用 水田

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~17cm, 腐植含む, オリーブ黒 (5 Y3/1), L, グライ斑あり, 管状斑鉄含む, ち密度14, 湿, 層界明瞭。
- 第2層 (Bcg₁) 17~24cm, 灰 (5 Y4/1.5), L~S L, 雲状斑鉄富む, 糸根状斑鉄あり, 弱塊状構造, 小・中円礫含む, ち密度21, 湿, 層界明瞭。
- 第3層 (Bg₂) 24~36cm, 灰 (5 Y4/1.5), L F S, Mn が砂面を汚染, ベンチジン反応⁺⁺, 単粒状構造, 小・中円礫富む, ち密度15, 半乾, 層界漸変。
- 第4層 (C) 36+cm, 砂礫そのものの色, L F S, 単粒状構造, 小・中円礫富む, ち密度15, 半乾。

外城統 (Toj)

厚い礫層をもちその上端が30cm以内に現われる粗粒褐色低地土壌である。礫層上の土層および礫間をうめる細土の土性は問わないが、風化による鉄の遊離のために褐色を呈している必要がある。

図幅西部の丘陵・山地を刻む小河川（浅川、川口川、平井川、小木曾川、成木川）沿いの現および古沖積面には美山統とともに礫質な褐色低地土が頻出する。なおこの土壌統には下層土が未風化の砂礫そのものの色を示す低地も含めたが、これらは発達未熟な低地土として分離するのが適当かもしれない。

一般にそ菜畑として利用されているが、礫の存在、低い保水性、貧弱な塩基状況など物理的、化学的障害は大きい。

代表断面

地点番号 36
 所在地 東京都八王子市西寺方
 地形、地質 谷底平野、沖積層
 標高 173m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩、水積
 土地利用 普通畑（サツマイモ）

断面形態

第1層 (Ap) 0～18cm, 腐植を含む, 暗褐 (7.5Y R3/3), CL, 弱塊状構造, 未風化細小礫すこぶる富む, 半乾, 層界判然。
 第2層 (B) 18～42cm, 褐～暗褐 (7.5Y R3.5/4), CL, マツシブ, 細～大円・半角礫すこぶる富む, 半乾, 層界判然。
 第3層 (II C) 42+cm, 砂礫そのものの色, CoS, 単粒状構造, 細～大円・半角礫よりなる砂礫層, 半乾。

井尻野統 (Ijr)

礫層が表面から30cm以内に現われる褐色低地（水田）土壌である。礫質な褐色低地土（外城統）を先行土壌とし、その特徴を下層土に残している水田土壌で、表層における溶脱層、集積層の分化、鋤床の形成等は一般に著しい。下層土は褐色を呈していることを特徴とするが本図幅内では未風化の砂礫そのままの色を呈しているものが大部分である。したがって発達未熟な低地土に由来する水田土壌として分離するのが適当かもしれないが、その点はこの問題とした。

多摩川に沿う沖積低地に広く分布するほか、図幅西部の山地、丘陵地を流れる川口川、秋川、平井川、小木曾川沿いの低地水田地帯はほとんどが井尻野統に属する。過大な透水性のため水管理が問題になる水田土壌である。

代表断面

地点番号 37
 所在地 東京都青梅市富岡2丁目

地形・地質 谷底平野，沖積層
 標 高 115cm 傾 斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，水積
 土 地 利 用 水田

断面形態

- 第1層 (Apg) 0～17cm, 腐植を含む，灰 (5 Y4/1), L, 酸化沈積物なし，小円礫含む，ち密度17, 湿，層界明瞭。
- 第2層 (Bcg₁) 17～25cm, 灰 (5 Y4/2), L, 糸根状・雲状斑鉄すこぶる含む，塊状構造，小円礫含む，ち密度20, 湿，層界明瞭。
- 第3層 (II Bg₂) 25～42cm, 暗灰黄 (2.5 Y4/2), S L, マンガンが砂礫面を被覆して沈澱，ベンチジン反応⁺⁺，単粒状構造，細～大円礫よりなる礫土，半乾，層界漸変。
- 第4層 (II C) 42⁺cm, 砂礫そのものの色，L S, 酸化沈積物なし，単粒状構造，細～大円礫よりなる礫層，半乾。

美山統 (Miy)

表面から30～60cmの範囲内から礫層の出現する粗粒褐色低地土壌である。礫層上の土層は壤質な土性をもつ。図幅西部の山地・丘陵地を流れる小河川，山入川（八王子市），小木曾川，成木川（青梅市）の谷底平野に分布しており，普通畑として利用されている。

代表断面

地点番号 38
 所在地 東京都八王子市美山町
 地形・地質 谷底平野，沖積層
 標 高 200m 傾 斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，水積
 土 地 利 用 普通畑（トウモロコシ）

断面形態

- 第1層 (Ap) 0～23cm, 腐植含む，灰黄褐～にぶい黄褐 (10YR4/2.5), L, 半角礫含む，ち密度6, 半乾，層界判然。
- 第2層 (B₁) 23～59cm, にぶい黄褐 (10Y R4/3), S L, マツシブ，小半角礫含む，

ち密度13, 半乾, 層界判然。

第3層 (II B₂) 59⁺cm, にぶい黄褐 (10Y R4/3), S L, マツシブ, 中・半角礫すこぶる富む, ち密度12, 半乾。

八口統 (Ytg)

この土壌は30~60cm以内から(砂)礫層が出現する粗粒褐色低地土壌である。

本図幅内では入間市万亀の入間川沿いにごく少面積であるが分布がみられる。この地域の土壌では礫層上の土層の土性は壤質で, 作土および次表層は灰色化しその下部に鉄・マンガンの沈積がみられる。主として水田として利用されているが休耕田がかなり多いようである。

代表断面

地点番号 39

所在地 埼玉県入間市万亀

地形・地質 谷底平野, 沖積層

標高 80m 傾斜 平坦

母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積

土地利用 草地(旧水田)

断面形態

第1層 (Ap) 0~20cm 腐植を含む, 暗灰黄 (2.5Y 4/2), 細円礫をわずかに含む, L, ち密度6, 半乾, 層界平坦明瞭。

第2層 (A₁₂) 20~28cm 暗灰~暗灰黄 (2.5Y 4/1.5), 細小円礫をわずかに含む, L, 糸根状斑あり, ち密度13, 半乾, 層界平坦明瞭。

第3層 (Bg₁) 28~32cm 暗灰黄~オリーブ褐 (2.5Y 4/2.5), 細小中円礫を含む, L, 糸根状斑すこぶる富む, ち密度18, 半乾, 層界平坦明瞭。

第4層 (Bg₂) 32~45cm 暗褐~にぶい黄褐 (10Y R3.5/3), 小・中円礫を含む, S L, マンガン結核すこぶる富む, ち密度14, 半乾, 層界平坦判然。

第5層 (II C) 45~60⁺cm 粗砂および細小中円礫よりなる砂礫層。

I. 2. 4. 灰色低地土

I. 2. 4. 1. 細粒灰色低地土壤

金田統 (Kan)

この土壤は沖積低地にあって下層土の基色が灰褐色を呈し、マンガン結核をもたない粘質の細粒灰色低地土壤である。一般に礫を含み、60cm 以下に礫層が出現する場合もある。本図幅内では昭島市福島町・中神町の多摩川沿いの氾濫平野に小面積分布し、水田として利用されている。

代表断面

地点番号	40
所在地	東京都昭島市福島町豆口
地形・地質	氾濫平野，沖積層
標高	80m 傾斜 平坦
母材および堆積様式	非固結堆積岩，水積
土地利用	水田

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~18cm 腐植含む，灰色 (5 Y 4/1)，C L，不鮮明雲状斑あり，ち密度12，湿，層界平坦明瞭。
- 第2層 (Bg₁) 18~30cm 灰黄褐 (10 Y R 4/2)，小・中円礫あり，C L，糸根状・雲状斑含む，弱度塊状構造，ち密度23，湿，層界平坦判然。
- 第3層 (Bg₂) 30~50cm 灰黄褐 (10 Y R 4.5/2)，C L，不鮮明雲状斑あり，ち密度19，湿，層界平坦判然。
- 第4層 (II B) 50~100⁺cm 灰黄褐 (10 Y R 4.5/2)，S C L，湿。

多多良統 (Ttr)

この土壤は下層土の基色が灰褐色を呈し、マンガン結核をもつ粘質の灰色低地土である。表層は一般に灰色であるが、ときには周辺の影響によって黄褐色を呈することもある。表層の土性は L~S L，下層土は C L であるが、ときには強粘質土層をはさみ、また60cm 以下ではあるが礫層の出現することもある。排水は比較的良好であるが、作土内にグライ

斑，また作土直下にうすいグライ層のみられることもある。

本図幅内では入間市花ノ木，立川市中神町，日野市上屋敷などの谷底平野に少面積分布し，水田として利用されている。

代表断面

地点番号 41
 所在地 埼玉県入間市花ノ木
 地形・地質 谷底平野，沖積層
 標高 125m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，水積
 土地利用 水田

断面形態

第1層 (Ap) 0～13cm 腐植を含む，暗褐 (10Y R3/3)，L，雲状斑あり，ち密度18，半乾，層界平坦判然。

第2層 (AG) 13～21cm 灰黄褐～黒褐 (10Y R3.5/2)，細小半角礫含む，CL，糸根状斑あり，ジピリジル反応顕著，ち密度12，湿，層界平坦明瞭。

第3層 (Bg) 21～100⁺cm 灰褐～褐色 (10Y R4/2.5)，CL，雲状斑含む，点状斑富む（とくに上半部に多い），ち密度17，湿，41cm に湧水面がみられたがこれは一時的のものとみられる。

佐賀統 (Sag)

この土壌は下層土の基色が灰色を呈し，マンガン結核をもつ強粘質の灰色低地土である。本図幅内では所沢市天王前，日野市宮付近の谷底平野に小面積みられるにすぎない。水田として利用されているが，所沢市天王前のこの土壌はほとんど耕作放棄されている。

代表断面

地点番号 42
 所在地 埼玉県所沢市天王前
 地形・地質 谷底平野，沖積層
 標高 35m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，水積
 土地利用 草地 (旧水田)

断面形態

第1層 (Apg) 0～19cm 腐植を含む, 暗灰黄 (2.5Y4/2), CL, 糸根状斑雲状斑わずかに含む, ジピリジル反応あり (グライ斑), ち密度13, 湿, 層界平坦明瞭。

第2層 (Bg) 19～100+cm 黄灰～暗灰黄 (2.5Y4/1.5), LiC, 雲状斑, 管状斑含む, マンガン点状斑含む, ち密度17, 80cm付近にグライ斑あり。

藤代統 (Fjs)

この土壌は全層あるいは下層土の基色が灰色を呈し, マンガン結核をもたない粘質の細粒灰色低地土壌である。下層土には構造の発達はみられない。断面中に礫を含み, 50～60cm以下で壤質の層へ移行するが多い。また約70cm以下に礫層が出現することもある。本図幅内では八王子市宮下町・加住町・梅坪町の谷地川沿いの谷底平野とこれに接する低位台地上の一部に, また国立市谷保の多摩川沿いの氾濫平野にそれぞれ小面積ずつ分布し, 水田として利用されている。国立地区での水稻収量は 360～420kg/10a である。

代表断面

地点番号 43
所在地 東京都国立市谷保下之下
地形・地質 氾濫平野, 沖積層
標高 60m 傾斜 平坦
母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
土地利用 水田

断面形態

第1層 (Apg) 0～14cm 腐植含む, 褐灰 (10YR3.5/1), CL, ち密度12, 半乾, 層界平坦明瞭。

第2層 (A₁₂g) 14～25cm 褐灰 (10YR3.5/1), CL, 不鮮明雲状斑あり, ち密度22, 半乾, 層界平坦判然。

第3層 (Bg₁) 25～50cm 灰色 (5Y4.5/1), 小円礫あり, SiCL, 雲状斑すこぶる含む, ち密度20, 半乾, 層界平坦判然。

第4層 (Bg₂) 50～100+cm 暗灰黄 (2.5Y4.5/2), FSL, 湿。

I. 2. 4. 2. 灰色低地土壤

善通寺統 (Znt)

この土壤は沖積低地にみられる下層土の基色が灰褐色を呈し、マンガン結核(点状斑)をもつ壤質の灰色低地土壤である。一般に約60cm以下で砂質の層へ移行する。本図幅内では国立市谷保の多摩川沿いの氾濫平野に出現するのみで分布面積は狭小である。水田として利用されている。水稻収量は 360~420kg/10a である。

代表断面

地点番号 44
所在地 東京都国立市谷保峽之下
地形・地質 氾濫平野, 沖積層
標高 60m 傾斜 平坦
母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
土地利用 水田

断面形態。

第1層 (Apg) 0~12cm 腐植含む, 黄灰 (2.5Y4/1), L, ち密度14, 半乾, 層界平坦明瞭。

第2層 (Bg₁) 12~22cm 灰色 (5Y4/1), L, 糸根状・雲状斑含む, ち密度21, 半乾, 層界平坦判然。

第3層 (Bg₂) 22~60cm 灰黄褐 (10YR4.5/2), SL, 不鮮明雲状斑すこぶる含む, マンガン点状斑あり, ペンチジン反応+, ち密度21, 半乾, 層界平坦判然。

第4層 (II B) 60~100+cm にぶい黄褐 (10YR4.5/3), LFS, 湿。

加茂統 (Km)

マンガン結核をもたない壤質の灰色低地(水田)土壤である。生成的には壤質な灰色低地(水田)土壤のうち相対的に湿ったグループを想定している。日野市万願寺付近の多摩川の自然堤防の後背部に局所的に出現するのみである。ふぎんは重金属汚染(とくにCd)が進行し、代表地点も水田作を停止している。

代表断面

地点番号 45

所在地 東京都日野市万願寺97
 地形・地質 谷底平野，沖積層
 標高 65m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩，水積
 土地利用 水田

断面形態

- 第1層 (A_{pg}) 0～18cm, 腐植を含む, 灰～オリーブ黒 (5 Y 3.5/1), L, 膜状斑鉄あり, ち密度19, 湿, 層界明瞭。
- 第2層 (B_{g1}) 18～31cm, 灰～オリーブ黒 (5 Y 3.5/1), CL, 糸根状斑鉄富む, 弱塊状構造, 小円礫あり, ち密度22, 湿, 層界明瞭。
- 第3層 (B_{g2}) 31～51cm, 灰 (5 Y 4/1), L, 糸根状斑鉄あり, 雲状斑鉄富む, ベンチジン反応+, マツシブ, 小円礫あり, ち密度19, 湿, 層界漸変。
- 第4層 (C_g) 51+cm, 灰 (5 Y 4/1), SL, 糸根状斑鉄あり, マツシブ, 小円礫あり, ち密度16, 湿。

I. 2. 4. 3. 粗粒灰色低地土壤

栢山統 (Kay)

この土壤は30cm以内から(砂)礫層の出現するきわめて有効土層の浅い粗粒灰色低地土壤である。砂礫層土の上層は灰褐色で礫を含み, 壤質ないし粘質で, 斑紋の発達が見られる。本図幅内では羽村町羽, 福生市福生・熊川, 国立市谷保の多摩川沿いの氾濫平野, 旧河道に分布するほか, 飯野市前原の入間川沿いの谷底平野に出現する。水田として利用されている。

代表断面

地点番号 46
 所在地 東京都西多摩郡羽村町羽
 地形・地質 氾濫平野, 沖積層
 標高 130m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
 土地利用 水田

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~15cm 腐植含む, 褐灰 (10Y R4/1), 細小円礫含む, C L, ち密度15, 半乾, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (Bg) 15~26cm 褐灰 (10Y R4.5/1), 小・中円礫含む, S C L, 糸根状・膜状斑含む, 弱度塊状構造, ち密度22, 半乾, 層界平坦判然。
- 第3層 (Cg) 26+cm 褐灰 (10Y R4.5/1), 小・中円礫すこぶる富む礫層, S C L, 糸根状斑あり。

追子野木統 (Okk)

この土壌は30~60cm以内より(砂)礫層の出現する壤~砂質の灰色低地土である。

本図幅内では飯能市の入間川左岸にごく少面積分布し水田として利用されている。この地帯の追子野木統では土性は壤質で, 礫層直上部にマンガン結核の集積が顕著にみられる。

代表断面

地点番号 47
 所在地 埼玉県飯能市阿須
 地形・地質 谷底平野, 沖積層
 標高 85m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
 土地利用 水田

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~16cm 腐植をわずかに含む, 黄灰 (2.5Y 4/1), L, 雲状斑わずかにあり, ち密度14, 半乾, 層界平坦判然。
- 第2層 (Bg₁) 16~28cm 黄灰~暗灰黄 (2.5Y 4/1.5), 細小円礫わずかに含む, L, 糸根状斑, 膜状斑すこぶる富む, ち密度20, 半乾, 層界平坦明瞭。
- 第3層 (Bg₂) 28~41cm 暗灰黄 (2.5Y 4/2.5), 細小中円礫含む, 礫, マンガン結核富む, ち密度22, 半乾, 層界平坦明瞭。
- 第4層 (C) 41~60+cm 粗砂, 細小中円礫よりなる砂礫層。

I. 2. 5. グライ土

I. 2. 5. 1. 細粒グライ土壌

東浦統 (Hgs)

この土壌は全層グライ層または作土直下よりグライ層が出現し、斑紋はもつが構造の発達は見られない粘質なグライ土である。

本図幅内では所沢市山口の柳瀬川沿いの谷底平野および入間市木蓮寺、寺竹の霞川沿いの谷底平野に小面積分布がみられるにすぎない。

代表断面

地点番号 48
 所在地 埼玉県所沢市山口町谷
 地形・地質 谷底平野, 沖積層
 標高 50m 傾斜 平坦
 母材および堆積様式 非固結堆積岩, 水積
 土地利用 水田

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~20cm 腐植を含む, 暗褐~褐色 (7.5Y R3.5/3), SiL, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (BG) 20~30cm 暗灰黄 (2.5Y4/2), CL, 糸根状斑含む, ジピリジル反応顕著, 湿, 層界平坦判然。
- 第3層 (G₁) 30~46cm 暗灰黄 (2.5Y4/2), CL, 斑紋なし, ジピリジル反応顕著, 湿, 層界平坦判然。
- 第4層 (G₂) 46~60cm 暗灰黄 (2.5Y4/2), CL, 管状斑含む, ジピリジル反応顕著, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第5層 (G₃) 60~100⁺cm 暗灰黄 (2.5Y4/2), CL, 斑紋なし, ジピリジル反応顕著, 湿。

西山統 (Nsh)

この土壌は全層グライ層または作土直下よりグライ層が出現し、斑紋、構造のないグライ土である。

本図幅内では狭山丘陵の東部および北部山麓部の狭少な谷底面に分布し、水田として利用されている。

代表断面

地点番号	49
所在地	埼玉県所沢市天王前
地形・地質	谷底平野，沖積層
標高	50m 傾斜 平坦
母材および堆積様式	非固結堆積岩，水積
土地利用	旧水田

断面形態

第1層 (Apg) 0~10cm 腐植を含む，暗褐 (10Y R3/3)，CL，雲状斑含む，ジピリジル斑わずかにあり，湿，層界平坦明瞭。

第2層 (G) 10~100+cm 腐植を含む，泥炭をわずかに含む，黄灰~暗灰黄 (2.5Y 4/1.5)，CL，ジピリジル反応顕著，潤。

II. 土壌分類と土地利用

II. 1. 主として山地・丘陵地地域の土地利用 (林野土壌)

本地域はおもに丘陵地からなる，東京近郊の里山で，古くから農用林として経営され，薪炭材あるいは落葉の供給源となって来た。しかし近年は近郊都市開発の影響で，丘陵地の開発がいちじるしく進み，住宅地，学校，ゴルフ場などの造成が行われている。従って現在は放置されたままの林が多く，林業的な取扱いのなされている処は極めて少ない。

一方，本図幅内では狭いが，図幅の西端から，西に隣接する五日市図幅内には，中・古

生層の山地が広がり、「青梅林業」と呼ばれる有名林業地があり、杉を中心とした集約的な林業経営が行われている。林地の生産力は高く、9割以上が造林地になっているという。これら中・古生層山地は一般に生産力は高いものの、地形が急峻であり、土壌は流亡し易い。したがって林地の取扱いには十分な注意が必要であり、大面積の皆伐や全幹集材などの方式を避け、土壌の地力維持をはかる様考慮することが肝要である。

丘陵地内の森林に関しては、今後市街地の拡大に伴い、自然保護や公園緑地の面から、また土地保全の面からも問題になる事が予想される。この地域の取扱いにあたっては、大局的な地域計画の立場から検討を進める事が望ましい。

以下、各土壌統ごとに、土地利用について述べる。

岩屑性土壌

南郷統で一括されているこの土壌のうち、斜面上部急崖地のもは土壌が極めて浅く、極端な場合には基岩の露出が見られ、植物は岩にはりついていると思われる程である。現在も谷の侵蝕に伴う崩壊が漸進の状態にあるので、土地保全の面から治山対策を充分にすべきであろう。また斜面下部の崩積土のところは、スギの生長も良好で生産力はかなりあるが、皆伐をさげ、土砂の流出を防ぐなど、土地利用に注意をばらう必要がある。

風化・火山抛出物未熟土壌

堀之内統、この土壌は分布が狭山丘陵と、阿須山丘陵の東端に限られている。古くは周辺部落の農用林として経営されて来たが、現在は都心への交通の便も良いので、恰好な住宅地として開発に目覚ましいものがあり、狭山丘陵の東半分および阿須山丘陵内での分布地域はほとんど住宅地、遊園地などになっている。

西半分は、村山、山口の水源池があるため、池の周囲は東京都の水源林になっており、保安林として景観が保たれている。今後は更に水源林だけでなく、周辺部をも含め、自然休養林あるいは森林公園として計画的な取扱いを進めて行く必要があろう。

乾性褐色森林土壌

成木1統はほとんどすべてアカマツ、広葉樹などの天然林となっているが、一般に瘠せ尾根で幅狭く、土壌は浅く、人工造林に不適當である。保護樹帯として残し、一般施業から除くのが望ましい。

平井1統は分布面積は比較的狭いが、鈍頂で、概して土層深く、条件が許せばヒノキ、アカマツの造林が考えられるが、生育にはそれほど期待出来ない。

七国峠1統は丘陵地地域の凸形部に広く分布し、土層は堅密で、稀には深いものもあるが一般に浅く、生産力は低い。現在はアカマツ、広葉樹などの林となっているが、開発が著しく、住宅、学校、ゴルフ場などが造成されつつある現状からみて、土地保全あるいは自然保護もしくは防風効果などを考慮し、経済的な施業は二義的なものとして取扱うべきであろう。

褐色森林土壌

成木2統は土層が深く湿潤であり、通気、透水とも良好で生産力は高く、スギの植栽には最も適している。ただし斜面が急であり、土壌の流亡が起こり易いので、施業にあたっては土地保全、地力維持などの配慮が必要である。

平井2統も成木2統と同様に土層は深く湿潤で、スギ、ヒノキの造林に適する。

七国峠2統

スギ、ヒノキの造林地が稀に見られるが生育は中庸である。大部分が広葉樹林として取られている。凹形斜面の下部では土壌条件も比較的良好であるが、一般に土がしまっており、通気、透水性ともやや劣る。

本土壌ならびに七国峠1統の分布地域は現在いちばん開発の対象となっている所であり、局部的にはスギ、ヒノキの造林も考えられるが、一般には経済林としてより、むしろ土地保全に重点を置き取扱うべきである。

滝山統は加住丘陵の東半分に分布しており、従来はアカマツ林、あるいは広葉樹薪炭林として経営され、落葉採取も行われて来た。現在は八王子の市街に一番近く地形がゆるやかなため、住宅地、学校などの造成が最も烈しい地域である。今の速度で開発が進むと、森林がほとんど失われる恐れがある。しかも火山灰は水を含みやすく、豪雨の折には急斜面はくずれやすい。開発にあたってはこれらの事に充分なる考慮をはらう必要がある。

II. 2. 主として台地・低地地域の土地利用（農地土壌）

本図幅内の台地および低地地域の農業は、畑作を中心として行なわれ、水稲作は多摩川その他の河川沿いの狭少な沖積低地においてわずかに行なわれているにすぎない。

河川沿いの沖積低地に分布する土壌は褐色低地土と灰色低地土であるが、比較的土性が

粗く、浅い位置から砂礫層の出現する排水良好ないし過大な土壌が主体をなしている。またこれらの土壌では作土のうすいものが多く生産力は比較的低い方である。例えば国立市の栢山統、普通寺統、藤代統などの褐色低地土、灰色低地土地帯における水稻収量は360～420kg/10aであるといわれている。この種の土壌では一般に水持ちがわるく、また肥料の保持力も低いものが多いので、収量の向上をはかるためには、土壌改良を行なうことが必要である。施肥改善の日野試験地の成績では珪酸石灰反当50貫施用区でかなりよい結果が得られている。このような本質的な改良を行なわない限り、肥料は分施が必要となり、肥培管理にかなりの労力を要する。このように生産性が低いこと、労力不足などと合わせて交通至便な条件下にあることもあって、近時急速に住宅地、学校、グラウンドその他の公共団地として転用される傾向にある。現在立川市の多摩川沿いの低地はほとんど改変され、福生市の栢山統として図示した地帯はこれまで水田として利用されてきたが、現在ではすべて耕作放棄されており近く埋め立てられて転用されることになっている。このような傾向は本図幅内低地のほぼ全域にわたって一般的にみられることで、丘陵地間の狭少な谷底面にある谷戸田などのような立地条件のわるいところを除いて、比較的早い時期に改変されることになろう。狭山丘陵内の柳瀬川沿いにみられるグライ土地帯でも耕作放棄されている水田が多い。

台地上の土壌は主として黒ボク土、一部褐色森林土からなり、主として普通畑として、また一部は茶園、桑園、果樹園などとして利用されている。主要畑作物は陸稲、麦類、野菜ではかんしょ、ばれいしょ、ごぼう、にんじん、大根などが多く、これらについて白菜、ほうれんそう、きゃべつ、うどなどの栽培が行なわれている。栽培作物は土壌の種類との間には明らかな関係はみられないが、地域的には若干の特徴があるようである。ごぼうは入間、所沢、砂川などにおいてとくに力がいれられ、入間ごぼう、砂川ごぼうなどとして関西方面へ多量の出荷が行なわれてきた。うどは小平でかなりひろく作られている。また以上の一般作物のほか主として狭山丘陵の北部を中心とし、瑞穂町、青梅市にかけて茶の栽培がひろく行なわれている。土壌が非常に軽しょうで風蝕をうけやすい黒ボク土であることと合わせ、この台地一帯では風蝕がかなり強いので茶は茶園以外にも普通畑の周囲に植えられ、防風垣としての役割も果している。台地も低地と同様宅地化、工業団地の造成などで耕地面積は漸減しつつあるが、茶の栽培面積はむしろ増加の傾向にある。入間市では普通作物と茶にさらに畜産、園芸をも加えた多角経営が行なわれている。

しかしながら立川を始め各市の市街地周辺地区は、都心からも近く交通が便利になってきたため急速に宅地化が進み、この地域の農業は、都市近郊農業というよりさらに進んだ都市農業とでもいうべき特殊な形態に転換するすう勢にある。農業公園の設立、植木、苗木、盆栽などの販売センター、馬場、作り売り、青田売り方式のレジャー農園その他種々の新構想が関係方面でだされており、今後はこのような線に沿って急速に形を変えていくものとみられる。

III. 資 料

- 1) 羽鳥謙三・寿円晋吾(1958): 関東盆地西縁の第四紀地史(Ⅱ) 地質学雑誌 752
- 2) 福田 理・高野 貞(1951): 東京都青梅町東北方阿須山丘陵の地質 地質学雑誌 674
- 3) 関東ローム研究グループ(1964): 関東ローム
- 4) 国土地理院(1970): 1/25,000 八王子, 土地条件図
- 5) 東京都(1958): 昭和33年度民有林適地適木土壤調査報告書
// (1965): 昭和40年度 //
- 6) 東京都経済局(1963): 東京都の地質
- 7) 東京都農業試験場: 施肥改善事業調査試験報告, 多摩川水系流域地区(1957),
中西部谷戸田地区(1960)
- 8) 東京都農業試験場: 地力保全基本調査成績書(1960, 1961, 1962, 1963, 1967,
1968)
- 9) 鴨下 寛・小島道也・山田 裕ほか: 農耕地土壌型調査第3報東京都, 農研報
B-11(1961)
- 10) 埼玉県農業試験場: 地力保全基本調査成績書(1952, 1953, 1965, 1969)
- 11) 岡崎セツ子: 立川段丘西端部のローム層の厚さの分布とその堆積状態, 地理学評論, 40, 211~219(1967)

Soil Survey

"OME"

(Summary)

1:50,000 "OME" sheet lies between E 139°15' to 139°30', and N 35°40' to 35°50'. About one-fourth of this sheet is occupied by mountainous and hilly region, about one-tenth by lowland region, and the rest by upland region. Tachikawa, the largest city in this sheet, is main city in western part of Tokyo prefecture.

Soil survey of this area was made on the Soil Survey Standard Regulation, Fundamental Land Classification, National Land Survey Law.

Mountainous and hilly region were surveyed in summer of 1971 by the members of Government Forest Experiment Station, Tokyo. Upland and lowland region were surveyed in autumn of 1971 by the members of National Institute of Agricultural Sciences, Tokyo.

The soils of this area are primarily divided into 1. soils which are mainly found on mountainous and hilly region, 2. soils which are mainly found on upland region, 3. soils which are mainly found on lowland region.

The soils in this sheet are classified in to soil series based on the profile characteristics, parent materials, modes of sedimentation and so on, as stated in Soil Survey Standard Regulation.

1. Soils mainly found in mountainous and hilly region

This region is divided into three regions of Palaeozoic and Mesozoic mountainous region, Miocene mountainous region and Pliocene or Diluvial hilly region. Hilly region is divided into four hills of Asuyama, Kusabana, Kasumi and Sayama which are consisted of semi-consolidated sediments.

Natural vegetation of these regions belonging to the temperate zone are composed mainly of Cycrobaranopsis, Quercus, Pinus, Shiia, Castanea, Acer and Alnus spp. But, hilly region has been changed into residential area with very high speed.

The morphological, physical and chemical properties of these soils are greatly influenced by these parent materials.

The soils of this region are classified into the following 3 groups, 4 series groups and 9 soil series.

Soil group	Series group	Soil series
------------	--------------	-------------

Lithosol	Lithosolic soils	Nango series (Ngo)
Regosol	Weathered volcanogeneous regosols	
		Horinouchi series (Hnu)
Brown forest soil	Dry brown forest soils	Naruki 1 series (Nr1)
		Hirai 1 series (Hri 1)
		Nanakunitōge 1 series (Nkt 1)
	Brown forest soils	Naruki 2 series (Nr2)
		Hirai 2 series (Hri 2)
		Nanakunitōge 2 series (Nkt 2)
		Takiyama series (Tky)

(1) Lithosol

Nango series (Ngo) is distributed on the edge of northern or eastern part of Kusabana and Kasumi hills. This series is a immature soil and is usually covered by naturally generated broad leaved trees or bushes but at lower part of slope Cryptomeria stands are found rarely.

(2) Weathered volcanogeneous regosols

Horinouchi series (Hnu) is distributed on Sayama hill and eastern part of Asuyama hill. This series is consisted of Tama loam (old volcanic ash). The color of soil is reddish dark brown and texture is heavy clay. This is usually covered by Quercus, Castanea, Alnus, Acer and Pinus. But the vegetation of eastern part is drastically changed by home construction.

(3) Brown forest soil

(3.1) Dry brown forest soils

Dry brown forest soils are distributed on ridges and convex parts of the mountains and hills. Usually the area of this soils is covered by natural pine forest or natural broad leaved forest.

Naruki 1 series (Nr1) which is distributed on the mountain ridges and convex parts of Palaeozoic and Mesozoic mountains, has thick A₀ layer, well developed loose granular, granular and nutty structures and color of 10 YR. This is usually covered by naturally generated Pinus, Quercus, Shii, and Cycloparanopsis spp but growth of trees is poor.

Hirai 1 series (Hri 1) which is distributed on the mountain ridges and convex parts of Miocen region, has thick A₀ layer, well developed granular and nutty structure. This is covered naturally generated Pinus, Quercus

and *Cycrobaranopsis*.

Nanakunitōge 1 series (Nkt 1) is distributed on convex parts of Asuyama, Kusabana and Kasumi hills. This series is a residual soils, which is derived from Pliocene gravel, sand and clay. Usually soil horizon is very thin and this soil is covered naturally generated *Pinus*, *Quercus* and other species but growth of trees is very poor.

(3.2) Brown forest soils

Brown forest soils are distributed on the concave slopes of mountainous and hilly region. These soils which have thick A and B horizon, are moderately and slightly wet brown forest soils.

Naruki 2 series (Nrk 2) which occupies the slopes of Palaeozoic mountains, has thick A horizon, crumb and blocky structures. This soil area is occupied plantation of *Cryptomeria* and *Chamaecyparis*. The growth of trees is very good.

Hirai 2 series (Hri 2) occupies concave slopes of Miocene mountain and the vegetation is converted into plantation of *Cryptomeria* and *Chamaecyparis*. The growth of trees is good.

Nanakunitōge 2 series (Nkt 2) distributed on the concave slopes of hilly region, is derived from Pliocene gravel, sand and clay or mixed material with ash. The soil horizon is thick but compact and has blocky structure. Usually this series is covered by naturally generated *Quercus*, *Castanea*, *Alnus* and other species but *Cryptomeria* stands are found rarely.

Takiyama series (Tky) which is consisted of Tachikawa loam (new volcanic ash), occupies the eastern part of Kasumi hill. Usually this soil has a thin A horizon and color of 7.5YR. The texture of soil is silty or loamy and the development of soil structure is slight.

This series is covered by naturally generated *Pinus*, *Quercus*, *Castanea* and *Alnus* spp. But this area has changed into residential area with high speed.

2. Soils mostly found in upland and lowland regions

Five major soil groups occur on diluvial uplands and alluvial lowlands. They are Andosols, Brown forest soils, Brown lowland soils, Gray lowland soils and Gley soils. Among them Andosols are the most widely distributed and therefore the representative soils in this region.

(1) Andosols

Ash-derived soils which are characterized by the prevalence of amorphous matter and abundant, highly humified organic matter, and other properties associated with them. They are subdivided into Deep Andosols, Andosols, Andosols(wet), and Gley-Andosols at the soil series group level.

(1.1) Deep Andosols

Andosols that have thick (some 60cm or thicker) black A horizon. Actually the A horizon one meter or more thick are quite common in this area. Aeolian, fluvial and deluvial re-depositions are presumably responsible for the development of the thick A horizons.

Seya series (Sey); very humic (more than 10% organic matter) A horizon.

Higashi-ohme series (Hgo); very humic A horizon, some gravels present.

Suwa series (Suw); very humic A horizon, gravel layer (more than 20% gravels occurring within 60cm of the surface.)

Naganuki series (Ngn); humic (between 5 and 10% organic matter) A horizon.

Hamura series (Hmr); humic A horizon, some gravels present.

(1.2) Andosols

Andosols which have the A horizons thicker than 25cm, but not so thick as to meet the requirement of Deep Andosols. Dark A horizons grade into the orange-brown, porous and friable B horizons.

Minase series (Mns); very humic A horizon, fine-textured.

Fussa series (Fus); very humic A horizon, fine-textured, some gravels present.

Kitahara series (Kth); humic A horizon, fine-textured.

Arahata series (Ara); humic A horizon, very fine textured, less pronounced allophanicity (degraded Andosols which have the inclination to Brown forest soils)

Mizuno series (Mzn); humic A horizon, some gravels present.

Ohnohara series (Ohn); humic A horizon, gravel layer occurring within

60cm of the surface.

(1.3) Andosols (wet)

Andosols which are used for rice cultivation (Andosol-Paddy soils). While the characters of original Andosols are well preserved, the paddy soil characters (including the differentiation into eluvial A and illuvial B horizons) are also pronounced in the upper parts of the profile.

Fukaizawa series (Fki); very fine textured, developed on the re-deposited Andosols in lowland regions.

(1.4) Gley-Andosols

Andosols which have the gley horizons within 80cm of the surface. These soils occur chiefly on alluvial lowlands where the water-table is generally high.

Iwayadani series (Iwy); the profile being gleyed throughout, fine to very fine textured.

Kasumigawa series (Ksm); gley horizon occurring relatively deep in the profile, fine to very fine textured.

(2) Brown forest soils

These soils have the dark A horizon over the brown B horizon, the latter being the product of siallitic weathering in-situ. Neither clay nor sesquioxides movement is indicated in the profile. These soils occur chiefly on the diluvial terraces.

(2.1) Brown forest soils (moderately moist)

Ohkusa series (Oks); very fine textured.

Ongata series (Ong); medium textured, gravel layer occurring between 30 and 60cm of the surface.

Akiru series (Akr); dark colored due to the intermixture of Andosol materials, fine textured.

Sengase series (Sng); dark colored due to the intermixture of Andosol materials, gravel layer occurring between 30 and 60cm of the surface.

(3) Brown lowland soils

Lowland soils which have weakly developed A horizon over brown B horizon (weathered B), which is underlain by mottled Bg or unweathered C materials. These soils are generally found on natural levee and old river beds. most of them are sandy or even gravelly and are hence extremely

drained.

(3.1) Brown lowland soils (medium or finer textured)

Sinkai series (Snk); fine textured.

Ohuchi series (Ou); (paddy soil) fine textured, manganese concretions present in subsoils.

Mikawachi series (Mik); (paddy soils) medium textured, manganese concretions absent.

(3.2) Brown lowland soils (coarse textured)

Iijima series (Iij); coarse textured.

Miyama series (Miy); medium to coarse textured, gravel layer occurring between 30 and 60cm of the surface.

Tojo series (Toj); gravel layer occurring within 30cm of the surface.

Nagasaki series (Ngs); (paddy soils) coarse textured.

Yatsuchi series (Ytg); (paddy soils) gravel layer occurring between 30 and 60cm of the surface.

Ijirino series (Ijr); (paddy soils) gravel layer occurring within 30cm of the surface.

(4) Gray lowland soils

These soils are characterized by that the major part of the profile is gray (chroma of less than 3). Gray color has been produced by the periodical saturation of water due either to artificial flooding under rice cultivation, or to the fluctuation of water table. These soils are subdivided into clayey, loamy and sandy groups at the soil series group level. The following 8 soil series are all used for rice cultivation (paddy soils).

(4.1) Gray lowland soils (coarse textured)

Kaneda series (Kan); hues being 10YR or redder, fine-textured, manganese concretions absent.

Tatara series (Ttr); hues being 10YR or redder, fine-textured, manganese concretions present in subsoils.

Saga series (Sag); hues being 2.5Y or yellower, very fine textured, manganese concretions present in subsoils.

Fujishiro series (Fjs); hues being 2.5Y or yellower, fine textured, neither manganese concretions nor structure present in subsoils.

(4.2) Gray lowland soils (medium textured)

Zentsuji series (Znt); hues being 10YR or redder, medium textured, manganese concretions present.

Kamo series (Km); hues being 2.5Y or yellower, medium textured, manganese concretions absent.

(4.3) Gray lowland soils (coarse textured)

Kayama series (Kay); hues being 10YR or redder, gravel layer occurring within 30cm of the surface.

Okkonogi series (Okk); hues being 2.5Y or yellower, medium to coarse textured, gravel layer occurring between 30 and 60cm of the surface.

(5) Gley soils

These soils have the gley horizon with its upper boundary within 80cm of the surface. These soils occur chiefly along the narrow valley plain and are all cultivated for lowland rice.

Higashiura series (Hgs); gley horizon occurring right below plow-layer, fine-textured, rusty mottles absent in subsurface soils.

Nishiyama series (Nsh); gley horizon occurring right below the plow-layer, fine textured, rusty mottles present in subsurface soils.

1972年 印刷発行

土地分類基本調査

地形・表層地質・土じょう

青 梅

編集発行 経済企画庁総合開発局国土調査課

印刷 東京製本印刷株式会社

東京都港区西新橋 2-4-1